

「十湖賞」と「浜松市東区俳句の里づくり事業」

松島十湖翁は江戸時代末期、現在の浜松市東区豊西町に生まれた俳人にして政治家、さらには地域貢献に務めた篤志家です。生涯に詠んだ句は七千句とも言われ、全国各地に多くの門人がいました。

十湖翁の俳句は、松尾芭蕉からの蕉風を継承すべく、花鳥風月といわれる春夏秋冬、四季折々の自然、その中ででの生活を詠む伝統的なものです。

「はま松は出世城なり初松魚」は、「出世の街・浜松」を象徴した、浜松を誇る気持ちを詠んだ句です。

東区では、こうした十湖翁の遺徳を称えるとともに、「郷土を愛する心」を今に伝えるべく「十湖賞」俳句大会を開催しています。

元来、東区内には多くの句碑群があり、多くの俳人も輩出していることから、「俳句の里」としての側面を垣間見ることが出来ます。

浜松市東区及び実行委員会では、このような背景のもと、「浜松市東区俳句の里づくり事業」を行っています。

第十三回「十湖賞」俳句大会入選句集

令和三年二月十一日（木・祝）
於 浜松市総合産業展示館 北館1号ホール



目次

ごあいさつ	2・3
十湖大賞	4
十湖賞	5
東区長賞	
県教育長賞	6
市教育長賞	
特選	7
佳作	8・9
奨励賞	10～13

選者

天野 薫氏

（「みづうみ」編集長）

高柳克弘氏

（「鷹」編集長）

坪井孝之氏

（「海坂」同人会長）

村松二本氏

（「椎」主宰）

※五十音順

第十三回「十湖賞」俳句大会投句実績

一般の部		高校生の部		中学生の部		小学生の部		全 体		一般の部・地域別	
人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	地域	投句数
633	1,217	1,273	2,372	3,534	6,048	2,252	3,951	7,692	13,588	市内	568
										県内(浜松市外)	186
										県外	463
										合計	1,217

※募集期間：令和2年7月1日(水)～令和2年9月30日(水)

浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会

委員長 松島 知次

第十三回「十湖賞」俳句大会は、全体で七、六九二人、一万三、五八八句もの投句をいただきました。投句者は過去最多、投句数は現在の応募方法になった第十回大会以降最多となり、非常に喜ばしく思っております。

今年は新型コロナウイルス感染症の流行により、外出自粛や休校など制限を強いられる中、過去に想いを馳せたり、未来への希望を願ったりと、さまざまな思いを抱えながら俳句を詠まれたのではないかと思います。

浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会では、これからも俳句を通じ、郷土を愛する気持ちを育むとともに、俳句文化の振興を図るため創意工夫を重ねてまいります。

終わりに、入選された皆様にご心よりお祝い申し上げますとともに、皆様方の今後ますますのご活躍、ご多幸をお祈り申し上げます。挨拶とさせていただきます。

浜松市東区長 藤田 晴康

浜松市東区では、明治・大正期に活躍した俳人・松島十湖翁により培われた俳句が盛んな地域性を活かし、平成十九年度から「俳句の里づくり事業」を行っています。この事業では、十湖の名を冠した「十湖賞俳句大会」のほか、区内の児童生徒を対象に、俳句に親しむ機会を提供する「小中高校俳句講座」などを実施し、地域の俳句文化の振興を図っています。

今年は新型コロナウイルス感染症の流行により、各種イベントの中止を余儀なくされる中、第十三回目を迎える本俳句大会を実施することができ、大変嬉しく思っております。今後も地域の財産である俳句を通じ、地域の皆様に郷土への誇りと愛着を持っていただくよう、様々な取り組みを行ってまいります。

結びにあたり、大会に投句いただいた皆様、選考していただいた選者の皆様、そして本事業に携わっていただいた全ての皆様に深く感謝を申し上げます。挨拶とさせていただきます。

十湖大賞・十湖賞〈高校生の部〉

ペガサス座祭囃子のなき夜に

浜名高校三年 鈴木 瑠華

評：「ペガサス座」は秋の星座として知られている。だから、この句の「祭囃子」は秋祭のお囃子ではないだろうか。例年ならばにぎやかな笛や太鼓が聞こえる夜に、コロナの影響だろうか、今年は静かに星を眺めているのだ。説明を省き余情あふれる句に仕上げている。(村松二本)

十湖賞

〈一般の部〉 天空は巨大水槽豊の秋

東京都府中市 藤井孝弘

評：秋の澄み渡った天空を、「巨大水槽」に譬えた発想に圧倒された。そこにあるはずもない水を呼び出したのは、想像力の力だ。しかも「豊の秋」の季語の置き方がうまい。見渡す限りの実りの稲田の広がりをイメージさせ、景色の魅力をより高めている。(高柳克弘)

〈中学生の部〉 暑すぎてぎょうざが焼ける浜松市

与進中学校二年 渡瀬 遥仁

評：浜松市は二十年の夏、気温四十一度の日本一を記録。ちなみに、ぎょうざの消費量は全国一位※。ぎょうざが焼けるのは暑すぎる気温のせいになっている。浜松市民ならだれもが納得する俳味のある句である。(坪井孝之)

〈小学生の部〉 夏休みじいじがつくる昼ごはん

白脇小学校六年 辻 蔵之介

評：楽しみにしていた「夏休み」。「じいじ」との会話・関りの幸せ。食事や宿題などの世話をしてくれる。今日は「じいじ」が「昼ごはん」を作ってくれて美味しく頂いた。「じいじ」の新たな姿の発見と感謝の気持ちが心打つ。(天野薫)

東区長賞

〓一般の部〓

けん玉の剣くたびれて春の暮

神奈川県川崎市 藤井 万里

評「けん玉」は様々な技ができるようになってくると、つい夢中になって続けてしまふ。もつと上手になりたいと練習しているうちに、ふとくたびれている自分に気づいたのだろう。それを「剣くたびれて」と剣に託して表現した。ここがこの句の非凡なところだ。いかにも春の日永らしい光景だ。(村松二本)

県教育長賞

〓高校生の部〓

朧月祖母の手のしわなぞる指

浜北西高校二年 柴田 真陽

評「祖母の手の皺を目にし、幼い頃から愛情を注いでくれたことへの感謝と祖母の人生に想いを巡らし思わず手でなぞった。温かく人間味豊かな素暗らしい笑顔に溢れる二人。季語「朧月」がそれらを見事に語る。(天野薫)

市教育長賞

〓中学生の部〓

枯れ葉道私の道よどきなさい

丸塚中学校二年 小塚 未玖

評「よどきなさい」と言っている相手は、二通り解釈できる。一つは、先を歩いている人に向かって。もう一つは、積もった枯れ葉に向かって。私は後者と解した。いつもの通学路が枯れ葉に埋もれてしまった驚きをユーモラスに表現した。「よどきなさい」のきつい言い方がこんなにも愉快に響くとは。(高柳克弘)

〓小学生の部〓

蓮の花雨の後では葉も光る

中ノ町小学校五年 山成 陸都

評「朝日の光が蓮の花を輝かせている。雨が降り止んだばかりである。睡蓮の葉とは異なり、蓮の葉には艶がないが、「雨の後では」ぬれて光っているのである。鋭い観察眼のあるすばらしい写生句である。(坪井孝之)

特選

〓一般の部〓

一人生れ二人逝く村梅の雨

東京都世田谷区 石川昇

子育てはキャベツを刻む音の中

袋井市 永井千恵子

〓高校生の部〓

聞き慣れぬ母の方言盆休み

浜北西高校三年 野末知里

蝉の声鳴き止む隙に矢を放つ

浜松東高校一年 墨岡真萌

〓中学生の部〓

帰省から帰る子供の手にスイカ

中郡中学校一年 加藤慎也

寒椿ここぞときめる払い腰

積志中学校三年 中村仁彦

〓小学生の部〓

お父さんに僕は元氣と墓参り

浜名小学校六年 松下稜真

花になり水をあびたい夏休み

積志小学校五年 森愛理

佳作

△一般の部▽

厨立つ夫と児の背秋夕焼

東京都足立区 小野史

夜歩きの缶コーヒーと蝉のから

浜松市中区 阿部洋子

錆びること呼吸すること流れ星

徳島県鳴門市 安藝達也

夏帽子その置きざまも父らしく

浜松市南区 小澤信久

秋風や教室のぞく又三郎

浜松市中区 大平悦子

髪切つてクレオパトラや秋うらら

浜松市東区 西澤寿江

△中学生の部▽

夜中起き感じる夜寒それもよし

篠原中学校二年 松本獅憧

蝉たちがにぎやかすぎて木がちぢむ

周南中学校一年 中山汰門

スマッシュが決まらず僕の夏終わる

八幡中学校三年 永井亮大

吹きとばせ梅雨のもやもや音楽隊

丸塚中学校三年 鈴木彩耶

こたつにね食べられてしまふ僕と猫

西部中学校二年 鈴木楓翔

来年はさくらの下で夢語る

八幡中学校三年 八木菜々美

△高校生の部▽

よろしくとやもりに想い託す祖母

掛川東高校二年 赤堀百音

蒲公英の綿毛が鼻に入りけり

浜松修学舎高校二年 野久雄翔

松葉杖狙撃銃みたいに扱うな

静岡高校三年 齊藤優翔

足の裏パッキリ割れる寒稽古

浜北西高校二年 内田康太

遅刻した君の寝癖は曼珠沙華

浜北西高校二年 松村唯音

着るはずの浴衣眺めて終わる夏

浜松東高校一年 林春花

△小学生の部▽

桜さきあつというまに五年生

中郡小学校五年 天野佳真

枝豆だ手と手がぶつかる争奪戦

北浜南小学校五年 鈴木莉生

スマホよりこつちを見てよ落椿

豊西小学校六年 鈴木太羅

きらきらととんぼとゆうひこうさする

北浜南小学校五年 森田悠愛

大しぜんゆらゆらゆるれるハンモック

笠井小学校二年 菅沼実夢

見上げるとくじらが泳ぐ青い空

白脇小学校六年 太田朝日

奨励賞

△一般の部▽

天竜や明善十湖稻稔る

浜松市北区

村松 和憲

ボート漕ぎ水面躍りし富士額

長野県長野市

香坂 理恵

音絶えし生家に春の光入れ

兵庫県明石市

北前 波塔

骨太の家系なりけり鎌祝ひ

伊東市

藍原 綾子

献上の稲刈る鎌のふるへをり

浜松市中区

川上 勝

マヨネーズ無き頃の味瓜をもむ

袋井市

小原 恵子

堅焼きの煎餅秋に入りにつけり

神奈川県横浜市

竹澤 聡

セツトする目覚し二つ新社員

岡山県井原市

山本 敏男

うな井や三拜九拜給付金

愛知県名古屋市長

岩田 勇

短夜の夢の湖畔に父と母

兵庫県神戸市

三原 靖彦

△高校生の部▽

闇の中行き先照らす赤電車

浜松東高校一年

山下 皓大

二人きり花火の音と胸の音

浜松東高校一年

村上 立祐

新しい自分へ進む成人の日

浜松東高校一年

河村 愛友花

乗り鉄が鉄道乗れず夏終る

掛川東高校二年

小倉 愛翔

手持ち花火忘れられない思い出に

掛川東高校二年

大石 愛夏

アスファルト胸・腹の無い甲虫

浜松東高校一年

庄司 薫史

暗き海の目を覚ましたる初日かな

浜松東高校一年

齋藤 聖夏

炎天下昔はやってたケンケンパ

天竜高校春野校舎三年

菅沼 陵希

鮎を食ふ鵜水しぶきがかかりそう

掛川東高校二年

堀 大雅

「虹だよ」と無口な父が送る写真

掛川東高校一年

松下 菜月

隙のなき武将に仕上げ菊師去る

愛知県東海市

斉藤 浩美

よるこべば喜び返す日向ぼこ

鹿児島県霧島市

秋野 三歩

いちはやく菫に気づく妻とゐる

駿東郡清水町

伊藤 孝一

あいうえおおっぱい足りて蚊帳に寝て

浜松市西区

松尾 義弘

ほんたうに怒ると飛ぶぞいぼむしり

浜松市中区

安立 由美子

どの顔も洗ひたてなり更衣

浜松市東区

鈴木 明寿

思い出の類義語となれ夏の空

浜松市東区

相羽 美智子

おい胡瓜日に三本も誰が食う

浜松市中区

遠藤 喜和

全身で削る硯師秋気澄む

浜松市浜北区

鈴木 柚

夏の夜電話で埋める会えぬ距離

浜北西高校二年

宇田 柚葉

背伸びした香水つけて君を待つ

浜松東高校一年

絹村 咲楽

僕達は積乱雲の中にいる

浜北西高校三年

河合 泰正

光る汗僕の身体が叫んでる

浜松東高校一年

小杉 凌大

烏瓜割れこぼれ出るからっ風

浜松学芸高校一年

高橋 奏太

夏の夜マスクをはずすさんぽ道

浜松東高校一年

唐澤 歩果

炎天下初の打席はライトゴロ

浜松東高校一年

藤田 拳斗

冷蔵庫サイダーひとつ見つけたり

熱海高校二年

大澤 あい

風さそう花よりもなお団子かな

浜松修学舎高校一年

佐々木 飛翔

ランニング小春日和に誘われて

浜松修学舎高校一年

山崎 愛海

奨励賞

〈中学生の部〉

せみの音に後おしされて面一本

富塚中学校二年

堀田顕臣

若葉生ゆ新たな命第一歩

中郡中学校一年

平田千尋

墓参り笑うあなたに会いたくて

西遷女子学園中学校三年

杉浦実姫

足跡を家までつなぐ冬の道

与進中学校三年

岡野修也

草刈りや日の出るまでの朝仕事

笠井中学校一年

間木悠喜

日傘持ちいざ出陣だ関ヶ原

周南中学校三年

阿部竜士

近所の子その友達はてんと虫

周南中学校一年

下原来実

四姉妹うちには来ないこいのぼり

富塚中学校二年

荒井つぐみ

岩つかむ風には乗らぬかぶとむし

中郡中学校一年

鈴木陽菜

コロナ禍で自宅が図書館読書の秋

丸塚中学校三年

袴田湖子

〈小学生の部〉

あれなんでいつもの山が雪景色

蒲小学校六年

竹田俊太郎

てれやささん仲よし姉妹さくらんぼ

中郡小学校五年

鈴木芹奈

なかないで卒業式だうれしいね

中ノ町小学校五年

野中柚菜

冷し中華幼いときの祖母の味

中ノ町小学校六年

山本泰士

終戦忌思いを胸に進んでく

中ノ町小学校六年

寺田菜緒

そよそよとわ紙のにおいのうちわかな

中瀬小学校三年

後藤穂音

大好きなびわをよこ目に宿題中

積志小学校五年

伊野瀬優歩

石のかげヤマトヌマエビ飛び出した

光明小学校六年

黒川類

はかまいりカニがにこにこ川わたる

中瀬小学校三年

大石優斗

パパとなら買い物いっぱいマフラーも

有玉小学校六年

山本百合愛

稲光僕の恐怖も照らされる

与進中学校二年

東大地

流れ星あの日の祖父をもう一度

庄内中学校三年

袴田あいこ

天の川カムパネルラはいまどこへ

篠原中学校一年

榎本紗希

鹿の子や親の背中を追い求め

積志中学校三年

村松優太

草取り後の祖母の服から椿の香

浜名中学校三年

井口日美華

世界一スイカ早食い志村けん

周南中学校三年

宮地陽菜

蝸牛真じゆの雨をながめてる

西遷女子学園中学校二年

永田理紗

夏の空祭りを想い笛を吹く

笠井中学校一年

長谷川釉己

数式と格闘しつつ終わる夏

富塚中学校二年

正久響

空蝉をつぶしてみると秋の音

周南中学校一年

田中瞭丞

おそろいの手作りマスク照れる父

笠井小学校六年

片石湖夏

親くると口だけみえるつばめの子

中郡小学校六年

鈴木麻椰

シュワシュワと口であばれるラムネかな

中郡小学校五年

家村澄成

たいようでばくもアイスもとけている

中郡小学校五年

吉崎航瑠

にじが出ててるてるぼうずわらってる

赤佐小学校五年

廣瀬賢人

台風はゴーゴーうなる大男

神久呂小学校五年

萩原柚希

大晦日心入れ変え深呼吸

豊西小学校六年

柴田花胡

おばあちゃん香水つけてお出かけだ

豊西小学校六年

山口隼誠

夏休みべんてん島でまぐろどん

与進小学校四年

松本知晃

川あそび魚がはねる父のあみ

北浜南小学校二年

太田龍